

クビアカツヤカミキリに注意！ サクラ・モモ・ウメなどの樹を食害します！

1 クビアカツヤカミキリの発生状況

- ◆平成29年7月31日、かつらぎ町において、クビアカツヤカミキリの成虫（♂1匹）が捕獲されました（周囲を調査した結果、他の成虫、フラス等は確認されませんでした）。
- ◆6月上中旬より成虫の羽化脱出が始まります。今後、和歌山県内にも侵入する恐れがあります。
- ◆園地やその周辺をよく見回り、成虫やフラスを発見したら最寄りの関係機関に連絡するとともに、速やかに防除を行うようお願いします。

2 クビアカツヤカミキリの生態

- ◆成虫の体長は3～4cm。全体は光沢のある黒色で、前胸は明赤色。
- ◆1～3年1化性のカミキリムシ。
- ◆サクラ、ウメ、モモなど主にバラ科の樹木を加害する。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。
- ◆幼虫は5～6月に最も摂食活動が盛んになる。6月に蛹化し、成虫は6～8月に出現する。成虫は幹や樹皮の割れ目に産卵し、8～9日後には卵が孵化する。
- ◆外来生物法に基づく特定外来生物に指定され（平成30年1月15日）、飼育や生体の運搬などが原則できなくなった。



♂成虫（かつらぎ町で捕獲された個体）

3 被害の事例

- ◆幼虫食入孔より排出されるフラスはうどん状で、時間が経つと固くなる。この「うどん状フラス」がある場合、樹の中に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆羽化した成虫が樹より脱出する際に排出する木くずは、おがくず状で固まらない。脱出孔は食入孔よりかなり大きく、扁平であることが多い。
- ◆食入部位（フラス排出部位）は、通常株元から2m程度くらいまでが多いが、3m以上の高い場所に食入することもある。
- ◆多数のカミキリムシが食入し、樹の内部を食い荒らされると、樹勢が低下しやがて枯死する。



うどん状フラス（幼虫の糞）



株元に大量の木くず

4 クビアカツヤカミキリの防除対策

◆成虫は見つけ次第、捕殺する。

◆うどん状フラスがある食入孔を見つけたら、千枚通しや針金等を食入孔に入れ、中のフラスをかき出してから薬剤を注入する。針金が幼虫まで届く場合は、針金で突き刺し殺虫するとより効果的である。また、千枚通しや針金の先を曲げておくとフラスがかき出しやすい。

◆樹の株元から1～2 m程度の高さまで4 mm目合いのネットを巻き付け、羽化後の成虫が他の樹に移動するのを防ぐ。ただし、ネットをかみ切ったり、隙間から脱出する場合もあるので、ネット設置後も見回りを行い、捕殺する。

【防除薬剤については以下を参照ください】

●農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm